

氏 名 ・ (本籍) 渡邊 香 (千葉県)

専攻分野の名称 博士 (医学)

学位記番号 医博甲第 892 号

学位授与の日付 平成 27 年 3 月 22 日

学位授与の要件 学位規則第 4 条第 1 項該当

研究科 ・ 専攻 医学系研究科医学専攻

学位論文題名 **The Association between Awareness of Sexual Behavior and Cognitive  
Social Capital among High School Students in Vietnam**

(ベトナムの高校生における性行動への意識と認知的ソーシャル・キャピタル  
との関連)

論文審査委員 (主査) 教授 村田 勝敬

(副査) 教授 美作 宗太郎 教授 河谷 正仁

## 学位論文内容要旨

The Association between Awareness of Sexual Behavior and Cognitive Social Capital among High School Students in Vietnam

(ベトナムの高校生における性行動への意識と認知的ソーシャル・キャピタルとの関連)

申請者氏名 渡邊 香

### 研究目的

思春期の性行動、特に婚前性交渉は、思春期の妊娠や性感染症との関わりから、世界中の公衆衛生における重大な関心と懸念になっている。ベトナムにおいても、婚前性交渉あるいは無防備な性交渉は、健康および社会的な問題となっている。同国の劇的な経済成長および政治変革は、婚前性交渉に対する意識や行動を含む社会的変化に影響をおよぼしていると考えられている。また若い世代に婚前性交渉が速いスピードで広がっているといわれている。近年、ベトナムの人口統計学的なリプロダクティブヘルスに関する多くの研究が報告されているが、ベトナムの高校生の性行動への意識に焦点を当てた研究はほとんどない。本研究は、ベトナムの高校生における認知的ソーシャル・キャピタルと性行動および意識の高揚との関連を明らかにすることを目的とした横断的研究である。

### 研究方法

本研究の参加者は、ベトナム社会主義共和国の首都ハノイの公立高校3校に在籍する二年生から選ばれた。本調査は、Center for Population Information and Documentation (CPID), General Office for Population and Family Planning (GOPFP)の協力を得て行った。2012年9月～10月に、1672人を対象に質問紙調査を行った。質問紙の回収率は100%だった。このうち、回答が不完全なものを分析から除外し、分析対象を1653人(98.9%)、男子生徒896人(54.2%)、女子生徒757人(45.8%)とした。

調査は自記式質問紙法で、質問紙および全ての関連文書は英語で作成した後にGOPFPのスタッフによりベトナム語に翻訳された。各対象高校の責任者から本調査を行う許可を得た。調査に当たり、参加生徒への詳細な説明および質問票の配布はGOPFPスタッフと対象高校の教職員によって実施された。調査は匿名とし、回答済みの質問紙は生徒各自が添付の封筒に厳封することで、プライバシー保護に配慮した。

質問項目は、基本属性の他に、参加者の性に関する知識や性行動、性意識、周囲の同世代の性経験の認識、認知的ソーシャル・キャピタル(SC)、Rosenberg Self-Esteem scale score(SE score)などを評価した。SCとして地域への愛着の有無を用いた。本研究では、①性別、②ソーシャル・キャピタルおよび性意識に関する質問内容に同意するか否か、③性知識に関する設問への正誤の各二群間のSE scoreの平均値をt検定により比較した。また、婚前性交渉の容認について、中央値で二値化したSE score、性知識としてコンドーム装着タイミングに関する質問の正誤、および周囲の同世代の性経験の認識の有無を独立変数とした多重ロジスティック回帰分析で検討した(モデル1)。さらに、地域への愛着を加えたモデルで分析した(モデル2)。本研究は日本赤十字秋田看護大学研究倫理審査委員会の承認を受けた(承認番号24-003)。

### 研究成績

分析対象者1653名は16から18歳で、そのうち99.9%が16歳だった。両親および一名以下の同胞と同居する核家族が86.7%だった。

性知識に関しては、コンドーム装着の適切なタイミングに関する設問に正確に答えた者は53.3%だった。地域への愛着と性行動および性意識の結果では、14.1%の生徒が婚前性交渉を容認し、参加者の70.2%は性交渉経験のある同世代が周囲にいと答えた。SCについては92.3%が地域への愛着があると答えた。

SE scoreの平均値は $18.0 \pm 3.9$ で、男子のほうが女子より高かった。「婚前性交渉をすべきでない」との設問に肯定した者は、否定した者より高いSE scoreを示した。さらに、地域への愛着に同意した者は否定した者よりも高かった。

2つのモデルの多重ロジスティック回帰分析を行ったところ、モデル1では、婚前性交渉容認とSE score、コンドーム装着のタイミング、周囲の同世代の性経験の認識との間にいずれも有意な関連がみられた。一方、モデル2で地域への愛着を投入すると、婚前性交渉容認とSE score、コンドーム装着のタイミングとの間の関連はみられなくなり、婚前性交渉容認と地域への愛着の間の有意な関連が見られた[OR (95% CI), 男子 3.16 (2.3 - 4.34), 女子 8.77 (5.38 - 14.29)]。

### 結論

地域への愛着といった認知的ソーシャル・キャピタルは、婚前性交渉に対する否定的な態度と関連があった。これは、認知的ソーシャル・キャピタルが、とりわけ若者のリプロダクティブヘルスの促進において重要視されなければならないことを示唆した。

## 学位（博士一甲）論文審査結果の要旨

主 査：村田 勝敬

申請者：渡邊 香

論文題名：The Association between awareness of sexual behavior and cognitive social capital among high school students in Vietnam（ベトナムの高校生における性行動への意識と認知的ソーシャル・キャピタルとの関連）

### 要旨

著者の研究は、論文内容要旨に示すように「認知的ソーシャル・キャピタルの構成要因の1つである地域への愛着は性行動意識と関連する」との仮説を検証するために、ベトナム・ハノイ市の公立高校生 1,653 名（平均年齢 16 歳）を対象として、匿名質問紙調査をおこなった。性行動意識として、婚前性交渉を容認するか否かが質問された。地域への愛着の有無の他、自尊感情、性に関する知識（コンドーム着用の正しいタイミング）、周囲の多くが性交渉経験を持っていると思うか否か等の交絡要因も同時に調べられた。婚前性交渉の非容認率は 85.9%（男 80.1%、女 92.7%）であり、地域への愛着率は 92.3%（男 91.1%、女 93.6%）、性知識の正答率は 53.3%（男 58.4%、女 46.1%）、同世代の性交渉経験の認知率は 70.2%（男 68.5%、女 72.2%）であった。多変量解析を用いて他要因を調整した後、地域への愛着の婚前性交渉の非容認に対するオッズ比は男子で 3.16（95%信頼区間、2.30～4.34）、女子で 8.77（5.38～14.29）であり、有意な関連性が認められた。以上より、認知的ソーシャル・キャピタルの1要因である地域への愛着は多感期の性行動意識の抑止と関連していることを示唆した。

本論文の斬新さ、重要性、研究方法の正確性、表現の明瞭さは以下の通りである。

### 1) 斬新さ

発展途上国のベトナム社会主義共和国において、これまで若者の性行動意識については殆ど調査・研究がされていなかった。その中で真正面から高校生の性行動意識、性知識、および認知的ソーシャル・キャピタル（の中の「地域への愛着」）について調査し、地域への帰属意識は婚前性交渉の非容認と関連すること、そしてこの関連性は女子高生ほど強いことを見出した。これは思春期高校生の性行動・性意識に社会的側面が関与することを見出したものとして評価に値する。

### 2) 重要性

本研究では、婚前性交渉の容認／非容認に社会的側面（地域への帰属意識）を考慮しなければ、自尊感情の高さ、正しい性知識、周囲の性交渉情報などが性行動意識と関連するという従来の結果を踏襲した筈であった。今回の解析では、自尊感情や性知識などが地域への帰属意識に内包されること示唆しており、この切り口で思春期若者の性問題に関するヘルスプロモーションの促進に寄与できる可能性を示した意義は高いと考えられる。

### 3) 研究方法の正確性

本研究は、質問紙調査に絡む諸問題また発展途上国ベトナムの中心都市ハノイの高校生という代表性に関わる問題を抱えているにも拘わらず、オッズ比が男子 3.16、女子 8.77 と高い“関連の強固性”を示した。したがって、ベトナム高校生全体にまで一般化するには幾許かの問題はあるものの、内的妥当性の高い研究であると考えられる。

### 4) 表現の明瞭さ

本研究は、性行動意識と地域への愛着との関連に着目し、これまでの問題点の所在(研究背景)、研究目的、方法、結果、考察を簡潔、明瞭に記載していると考えられる。

以上述べたように、本論文は学位を授与するに十分値する研究と判定された。